

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	5
(セグメント情報等の注記)	5
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	5
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、社会活動や経済活動の正常化が進む中で、金融・財政などの各種政策の効果もあり、景気は緩やかに回復しております。一方、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の激化による資源・原材料・エネルギー価格の高騰、円安による物価の上昇に加え、世界的なインフレに伴う政策金利の引き上げなどによる海外景気の減速への懸念があり、今後の景気動向には十分注意する必要があります。

当社グループの事業領域である情報サービス産業を取り巻く環境については、企業収益の改善傾向が続く中、人手不足対応やテレワーク関連投資、デジタル化に向けたソフトウェア投資を中心に、企業のIT投資への意欲は底堅く、IT投資需要は引き続き拡大することが期待されます。当社グループの属する国内CMS市場においてもWEBサイトの重要性が増してきていることから、WEBマーケティングやWEBに関わる業務改善についても興味・関心をもたれる企業が増加してきております。また、コロナ禍以降、事業変革に向けデジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みが加速し、働き方改革に伴うクラウドや生成AIの利用促進により、国内企業におけるDX投資の需要は堅調に推移してきました。特に、生成AIの一種であるChatGPTが注目を浴びるなど、コスト削減や業務効率化、新たな働き方を創造するための最先端技術を活用した動きはさらに活発化しております。

このような事業環境の中、当社グループは自社開発のWEBサイトコンテンツ管理システム「infoCMS」を活用したWEBサイト構築および構築後のサーバ・システム運用保守などのアフターサポートまでを一貫したWEB受託開発・ASPサービスを主事業とし、子会社である株式会社アイアクトからは、AIを利用したファイル・サイト内検索システム「Cogmo Search」、会話の分岐が可能な第2世代AIチャットボットシステム「Cogmo Attend」のサービスを提供するなど、企業の業務改善DXとWEBマーケティング支援を目的とした事業展開を行っております。

また、当第1四半期連結累計期間においては、ブランディング戦略×クリエイティブ×SEOを組み合わせたブランドマーケティング支援を強みとし、採用サイト、ブランドサイト、オウンドメディア等において多数の高品質な支援実績を有している株式会社ブランドデザインの株式を取得したことに加え、次世代CMS『LENSAhub(レンサハブ)』を開発し、正式リリースに向けたサービスサイトをプレオープンするなど、WEBサイトに紐づく様々な課題解決の幅を広げております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は429,263千円(前年同四半期比8.7%増)、営業損失は1,399千円(前年同四半期は営業利益18,249千円)、経常損失は2,667千円(前年同四半期は経常利益278千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は17,617千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失14,355千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は1,723,147千円となり、前連結会計年度末と比較して95,548千円の増加となりました。流動資産は995,050千円となり、前連結会計年度末と比較して1,105千円の増加となりました。これは、現金及び預金が119,994千円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が126,607千円減少したこと等によるものであります。固定資産は728,096千円となり、前連結会計年度末と比較して94,442千円の増加となりました。これは、のれんが77,706千円増加したこと等によるものであります。流動負債は410,182千円となり、前連結会計年度末と比較して11,914千円の増加となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が32,004千円増加したこと等によるものであります。固定負債は290,555千円となり、前連結会計年度末と比較して100,351千円の増加となりました。これは、長期借入金が97,663千円増加したこと等によるものであります。純資産は1,022,409千円となり、前連結会計年度末と比較して16,717千円の減少となりました。これは、利益剰余金が17,617千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月14日に発表しました2025年3月期の連結業績予想に変更はありません。